3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004 年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005 年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部（学士課程）の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2012 年度の工学部学生会は各学科代表 22 名で構成され、会長には小山伸康（工学部社会環境工学科 3 年）、副会長には大谷佳央（工学部機械システム工学科 3 年）、会計に西田直也（工学部マテリアル工学科 4 年）、書記に坂本龍弥（工学部数理工学科 3 年）と山下修平（工学部数理工学科 3 年）がそれぞれ選出された。

工学部学生会では工学部学生会室を拠点として定期的に学生会会議を行い、工学部学生会の運営方針や各学科の学生会の現状と問題点、今後の工学部学生会の活動内容などについて意見交換を行なっている。また、工学部運動会の運営や留学生との交流会などの自主的な活動を行っている。また、秋季に開催される工学部長と学生代表の懇談会では工学部の学生を代表して意見や要望を述べ、学生会長、副会長及び理事の3人は、さらに学長と学生代表の懇談会にも出席している。また 2010 年度から実施しているマナーアップキャンペーンも定期的に行った。

前前年度の学生会の話し合いにおいて、「他大学での学生会の活動状況を知りたい」という意見があり、今年度は平成 24 年 9 月 21 日に愛媛大学で開催された5大学（熊本大学、山形大学、徳島大学、群馬大学、愛媛大学）連携教育シンポジウムに学生会代表 2 名と教員 2 名（國武、杉本）が参加した。なお、基調講演「大学生の汎用的能力とは ～愛媛大学生コンピテンシーを元に考える～」には5大学の学生10名を含む約50名が参加し、講演後のフリートークにおいて5大学の学生同士による活発な意見交換を行った。

・学生会主催による復活第五回運動会

1952 年 10 月 26 日に工学部グラウンドで新制大学の第1回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず 1999 年の第47回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007 年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は 200 名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第一回工学部運動会を 2008 年 10 月 25 日（土）に開催した。

それ依頼，学生会が中心となり，毎年運動会を開催しており，2012 年度は 2012 年 10 月7日（日）に，秋晴れの中、武夫原にて第五回工学部運動会を開催した。

運動会の名物である応援団の演舞も前年より社会環境工学科、マテリアル工学科、情報電気電子工学科も加わり，合計3学科で披露された。日頃あまり声を出すことが少ない学生も、運動会では学科毎に一丸となって競い合い、工学部学生の重要なイベントとして非常に盛り上がっていると言える。

ただ、運動会の復活後も一部の学科を除くと、学部4年生および大学院生の参加が中心で、1～3年生の参加が非常に少ないのが現状である。このイベントは、学科やクラスのまとまり、先輩後輩との交流として重要なものと考えられるので、より多くの学生を参加させるようにする事が必要であると考えられる。

・学部長と学生代表の懇談会

2012 年 11 月 12 日(月)18:00－19:50 工学部1号館 2F共用会議室 B において、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から各学科学生会代表13名、工学部側から工学部長、両副学部長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、自然科学系事務ユニット長、工学部教務担当係長の計 10 名が参加した。

今回は学長から『学長と学生代表との懇談会関連テーマ』として、「グローバル化社会の中で次代を切り拓く人材の育成について」「高校教育と連携・接続と入試制度のあり方」「学修支援策のあり方」について意見交換がなされたが、学生代表にとってはいずれも内容が重く、工学部長、副工学部長からの補足説明を十分に聞いたうえでの懇談となった。結果、ある程度の意見交換はなされたが、このような意見徴収のやり方には学生としても困惑しており、全学的な検討の余地があると考える。

また、従来より行っているフリートークにおいては、学生会より施設に関する要望などが出され、活発な意見交換がなされた。更に、次年度の活動方針として、学生会に複数の学年を参加させるような仕組みを作ること、また次年度も、工学部運動会、エコキャップ活動を継続する旨説明があった。